

神奈川県における地上棲小型哺乳類の水平 および垂直分布について

小林 峯 生 ・ 小宮山 仁

Notes on Horizontal and Vertical Distribution of Small Mammal in Kanagawa Pref.

Mineo KOBAYASHI and Hitoshi KOMIYAMA

はじめに

県下に棲息する地上棲小型哺乳類に関する調査報告のうち、ほぼ全県的に調査したものは、今泉他(1980)が最も新しい。その後、現在に至るまで報告されていない。そこで県下全域にわたって集めた資料としては、県立博物館が多年にわたって集めた資料があるので、その資料データーをベースにして田代(1961)、今泉他(1964, 1966, 1980)、小林・北原(1968)、小林(1974)、小林・山口(1971)、大類(1981, 未発表)山口(1981)などのデーターを加えて、県下に棲息する地上棲小型哺乳類の水平および垂直分布の現状を検討した。その結果をここに報告する。

報告に先だち、データーを提供してくださった伊豆シャボテン公園大類正久氏、採集に協力していただいた東京農業大学教養課程生物研究室北原正宜講師および県立博物館山口佳秀主任学芸員、相模原市役所新井一政氏に心から感謝する次第である。

調査方法および記録方法

1) 地上棲小型哺乳類とは今泉他(1980)にもとずき、ネズミ用およびモグラ用トラップを使用して採集できる哺乳類とし、家鼠と呼ばれているクマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミは除外した。

2) 県下に棲息する地上棲小型哺乳類は食虫目5種、齧歯目6種の計11種である。そこで県下全域の5万分の1地形図にメッシュを切り、各種について採集地点をできるかぎり正確に明記するように努めた。

3) 種名は今泉(1963)および CORBET & HILL (1980)によったが、わが国に棲息する地上棲小型哺乳類の亜種名は、いまだに混沌としているので使わぬ

ことにした。

4) 各種についての採集記録は採集地名(標高)、採集者またはデーター出典文献の順に明記した。

考 察

食虫目 INSECTOVORA

食虫目ではトガリネズミ科 Soricidae に属するジネズミ *Crocidura dzinezumi* とカワネズミ *Chimarrogale platycephala* の2種、モグラ科 Talpidae に属するモグラ *Mogera wogura*、ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris*、ヒミズ *Urotrichus talpoides* の5種が県下には棲息する。モグラ科の一種ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* は PEYSR が横浜付近で採集したという記録(今泉, 1963)があるだけで、その後、採集したという記録はない。しかし、今泉(1963)は「PEYSR氏が採集した横浜付近というのは丹沢か箱根ではあるまいか。恐らくこの地帯にも棲息していると思う」と述べている。トガリネズミ類も丹沢に棲息していると思われるが、いまだに採集記録はない。トガリネズミ類とモグラ類を採集することは比較的困難である。特にモグラ類は棲息している坑道を探し、そこにトラップを設置しなければならない。そのため山地のみに棲息するミズラモグラの採集は、山地での坑道の発見がなかなかできないので困難をきたしているものと考えられる。またトガリネズミ類を捕獲するために、最近トラップに入れる餌の種類を工夫し、全国各地で採集をおこなった結果、相当の効果をあげることができたので、県下での採集においても、今後の調査に期待してもよいと思われる。

ジネズミ *Crocidura dzinezumi*

哺乳類中最小なトガリネズミに次いで小形なほぼわが国特産の食虫類で、北海道、本州、四国、九州、隠岐島、種子島、屋久島、奄美大島、韓国の済州島に棲息する。次の7か所から棲息が確認された(図1)。

①丹沢白石沢(900m)、小林・小宮山採。②丹沢東沢(600m)、小林採。③丹沢ユースン休泊所(800m)、小林採。④箱根町金時山(1200m)、田代(1961)。⑤箱根町小塚山(700m)、小林採。⑥箱根町強羅(700m)、田代(1961)。⑦山北町畑(250m)、小林・小宮山採。

県下に棲息する地上棲小型哺乳類の分布調査を1965年に始めて以来ジネズミの採集に努力してきたが、なかなか採集できないため、その棲息範囲は極く限られた種ではないかと考えていた。しかし、最近トラップにカイコの蛹を入れると捕獲が容易であることを知った。最近では丹沢白石沢と山北町畑で続けて採集できたのが、その例である。今のところ山北町と箱根町を中心に、その棲息が知られているだけだが、丹沢山塊にはジネズミが棲息すると推定される環境が、広く分布しているので、今後の調査において水平分布状況は広がるものと思われる。垂直分布状況(図11)は⑦山北町畑の標高250mから④箱根町金時山1200mまでの間に集中的分布が見られる。しかしこの垂直分布状況も、今後の調査の進展によってかわるであろう。

カワネズミ *Chimurrogale platycephala*

半水棲でヒマラヤ、ビルマ、中国南部、台湾、日本(本州、四国、九州)の河川に棲息する。次の6か所で棲息が確認された(図2)。

①藤野町沢井川(430m)、小林採。②清川村塩水川(400m)、小林採。③丹沢札掛布川(500m)、小林採。④箱根町早川(700m)、小林・北原採。⑤小田原市新崎川(400m)、小林採。⑥湯河原町奥湯河原門川(600m)、田代(1961)。

採集の機会があるごとに数10回河川の浅瀬にトラップを設置したが、上記6か所以外では棲息が確認できなかった。棲息が確認された地点のいずれもが、標高は低く400から600mの範囲である(図11)。このことはカワネズミは一般的に標高約500m以下に棲息するということと一致する。

ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris*

日本産モグラ科のなかで最も小さくて原始的で、

主に標高1000m以上の高山に棲息するわが国特産種で、本州と四国にのみ棲息する。県下では小林・北原(1968)が報告するまで棲息が確認されていなかった。次の4か所で棲息が確認されている(図3)。

①丹沢犬越路(1170m)、小林・北原採。②丹沢松洞丸山(1500m)、小林・北原・飯田採。③丹沢蛭ヶ岳(1670m)、小林・北原採。④丹沢姫次(1350m)、小林・北原採。

小林・北原(1968)が報告して以来、調査は進んでいないようである。今後の調査によって水平分布状況は広がるものと推定される。また垂直分布状況は標高1000m以上の地点のみから記録されているが(図11)、1000m以下でおこなっている採集では捕獲されていないので、恐らく丹沢山塊ではヒメヒミズは1000m以上の地帯のみに棲息するものと推定される。

ヒミズ *Urotrichus talpoides*

ヒメヒミズに酷似するが、やや大きく、わが国特産種で本州、四国、九州、五島、対馬に棲息する。主に低地から標高1700m位までの山地に棲息するが、平野の畑地や開けた草原、川原等には稀で、山麓や山間部等の樹木の多いところで、多く採集できる。次の48か所で棲息が確認された(図4)。

①藤野町陣馬山(857m)、小林・山口採、今泉他(1980)。②相模湖町石老山顕鏡寺(347m)、小林・山口採、今泉他(1980)。③丹沢神ノ川(600m)、小林・山口採。④丹沢早戸川上流蛙沢(600m)、小林・山口採。⑤丹沢白石沢(900m)、小林・山口採。⑥丹沢松洞丸山(1500m)、小林・北原・山口・飯田採。⑦丹沢蛭ヶ岳(1670m)、小林・北原採。⑧丹沢姫次(1350m)、小林・北原採。⑨丹沢丹沢山(1560m)、⑩山北町ゴーラ沢(700m)、小林・山口採。⑪山北町箒沢(600m)、小林・小宮山採。⑫丹沢熊木沢(700m)、小林・北原採。⑬山北町ユースン休泊所(600m)、小林・北原採。⑭丹沢鍋割沢(750m)、小林・北原採。⑮清川村札掛(500m)、小林採。⑯丹沢カジャ沢(650m)、小林採。⑰丹沢二ノ塔(1200m)、小林採。⑱丹沢ヤビツ峠(700m)、小林・山口採。⑲伊勢原市大山(700m)、小林・小宮山採。⑳秦野市大倉(400m)、小林採。㉑松田町高松山(800m)、大類(1981)。㉒山北町向原(300m)、小林採。㉓秦野市震生湖(200m)、小林採。㉔箱根町金時山(1200m)、田代(1961)。㉕箱根町宮城野(500m)、小林・北原採。㉖箱根町大原(650m)、田代(1961)。㉗箱根町強羅(700m)、

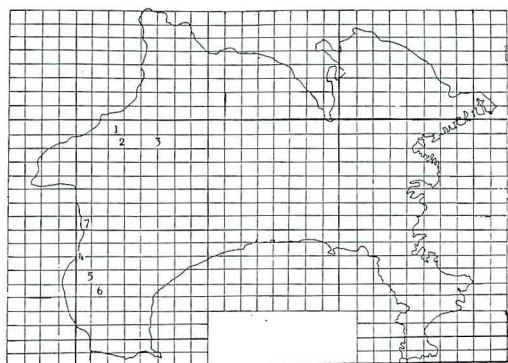


図1 シネズミの採集地点。(1)白石沢, (2)東沢, (3)ユーシン, (4)金時山, (5)小塚山, (6)強羅, (7)畑。

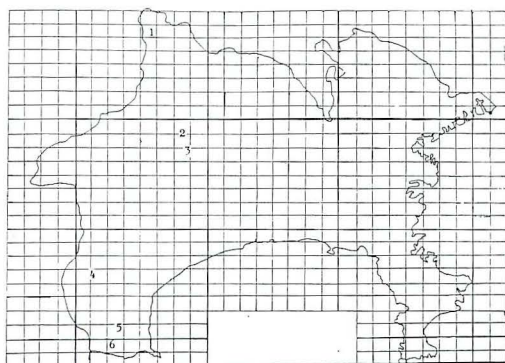


図2 カワネズミの採集地点。(1)沢井, (2)塩水, (3)札掛, (4)早川, (5)新崎川, (6)奥湯河原。

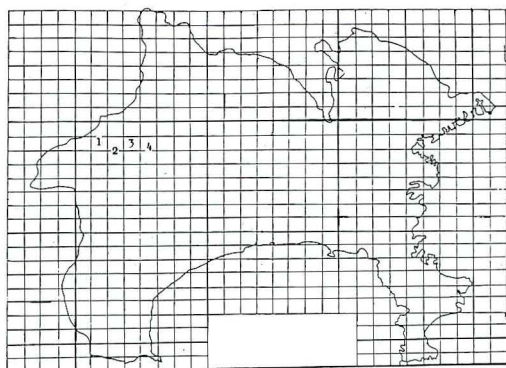


図3 ヒメヒズミの採集地点。(1)犬越路, (2)松洞丸, (3)蛭ヶ岳, (4)姫次。

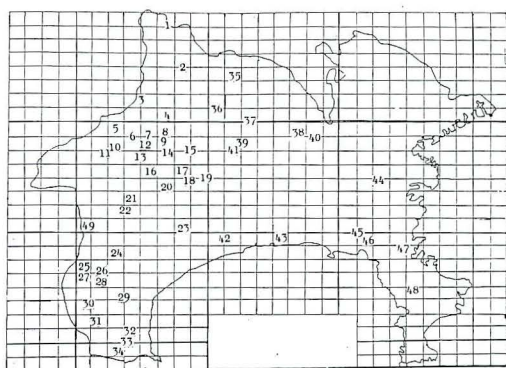


図4 ヒミズの採集地点。(1)陣馬山, (2)顕鏡寺, (3)神ノ川, (4)蛙沢, (5)白石沢, (6)松洞丸, (7)蛭ヶ岳, (8)姫次, (9)丹沢山, (10)ゴーラ沢, (11)箒沢, (12)熊木沢, (13)ユーシン, (14)鍋割沢, (15)札掛, (16)カジカ沢, (17)二ノ塔, (18)ヤビツ峠, (19)大山, (20)大倉, (21)高松山, (22)向原, (23)震生湖, (24)最乗寺, (25)金時山, (26)宮城野, (27)大原, (28)強羅, (29)塔之沢, (30)駒ヶ岳, (31)元箱根, (32)聖岳, (33)星山, (34)新崎川, (35)小倉山, (36)仏果山, (37)鷹尾山, (38)栗原, (39)飯山, (40)本郷, (41)七沢, (42)鷹取山, (43)柳島, (44)下永谷, (45)山崎, (46)佐助稻荷, (47)鷹取山, (48)大楠山

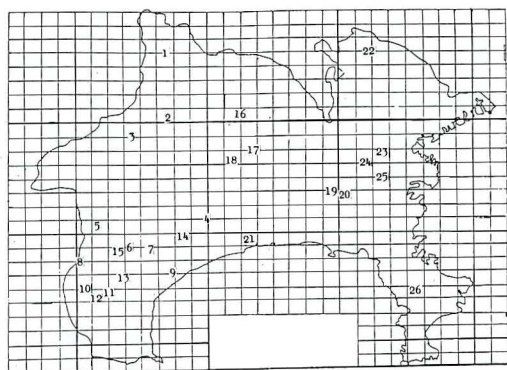


図5 モグラの採集地点。(1)山口, (2)蛙沢, (3)松洞丸, (4)山谷, (5)山市場, (6)飯沢, (7)曾比, (8)金時山, (9)鴨宮, (10)台ヶ岳, (11)木賀, (12)早雲山, (13)和留沢, (14)吉田島, (15)大雄町, (16)荻野, (17)厚木ゴルフ場, (18)七沢, (19)下飯田, (20)深谷, (21)高麗山, (22)中之島, (23)保土ヶ谷, (24)南本宿, (25)下永谷, (26)大楠山

田代(1961)。②箱根町塔之沢(200m), 田代(1961)。③箱根町駒ヶ岳(1320m), 田代(1961)。④箱根町元箱根(800m), 田代(1961)。⑤小田原市聖岳(800m), 小林・北原採。⑥小田原市星山(810m), 今泉他(1980)。⑦小田原市新崎川上流(400m), 小林・小宮山採。⑧城山町小倉山(300m), 今泉他(1980)。⑨愛川町仏果山(500m), 今泉他(1980)。⑩厚木市鷹尾山(230m), 今泉他(1980)。⑪座間市栗原(70m), 今泉他(1980)。⑫厚木市飯山(270m), 今泉他(1980)。⑬横浜市瀬谷区本郷(60m), 今泉他(1980)。⑭厚木市七沢(200m), 小林・山口採。⑮二ノ宮町鷹取山(240m), 今泉他(1980)。⑯茅ヶ崎市柳島(10m), 大類(1981)。⑰横浜市港南区下永谷町(70m), 小林採。⑱鎌倉市山崎(60m), 小林・山口採。⑲鎌倉市佐助稲荷(100m), 小林・田村採。⑳逗子市鷹取山(300m), 今泉他(1980)。㉑横須賀市大楠山(240m), 今泉他(1980)。

図4に示したようにヒミズは県下全域に広く分布している。調査は箱根および丹沢地域を主におこなったもので、両地域における水平分布状況はほぼ解明されたが、5万分の1地形図区分による藤沢、八王子、横浜、横須賀などの地域にも、ヒミズが棲息すると推定される神寺林や林におおわれた小丘が現在も平野部に多く残されている。これらの地域を今後調査することによって水平分布状況は恐らく大きく変化するものと思われる。垂直分布状況は海岸線に位置する⑬茅ヶ崎市柳島の標高10mから、丹沢山塊の最高峰である蛭ヶ岳1670mの間に分布している(図11)。⑭茅ヶ崎市柳島10mでの採集記録(大類, 1981)は恐らくわが国で最も標高の低い地点での記録であろう。⑰横浜市港南区下永谷町での記録は、1968年のもので、この地点はすでに宅地化され、現在では棲息していないが、その付近にはヒミズが棲息すると推定される林が多く残されているので、調査することによって再び記録されるであろう。

モグラ *Mogera wogura*

中形のモグラでわが国の特産種である。本州、九州南部、対馬、種子島、屋久島等に棲息する。本州では中部地方の主として日本海に面する地方および関東地方、東北地方の平地および山地に多数棲息する。本県はモグラの水平分布における境界地帯で、その境界線は箱根にあるといわれている。田代(1985)によると本州に棲息するもう一種の朝鮮半島経由で、わが国に

侵入したコウベモグラ *Mogera kobae* は、静岡県まで到達して西日本一帯に広く分布しているが、箱根でその東進が一時的に阻止されている状況が認められているという。また箱根では近年静岡県側より直線的に箱根古期外輪山をこえて、カルデラ内の仙石原にだけコウベモグラが侵入しているという。しかし、今回の調査ではコウベモグラの資料は得ることができなかった。モグラの亜種とされているコモグラ *Mogera wogura imaizumi* も本県に棲息しているが、現在のところコモグラとモグラの中間型が箱根を中心にしてみられるようになったため、今回の報告ではコモグラをモグラの同一種として扱った。モグラの採集は先にも述べたように、ヒミズのように簡単ではなく、モグラが生活している坑道を探し、そこにモグラ専用のトラップをかけねばならないので、なかなか捕獲することができないのが現状である。しかし坑道を探すことによって棲息を確認することもできるが、今回の報告では標本の得られた地点のみを報告の資料とした。その結果、次の26か所で棲息が確認できた。

①相模湖町山口(200m), 小林採。②丹沢早戸川上流(700m), 小林・山口採。③丹沢 松洞丸山(1500m), 小林採。④秦野市山谷(250m), 中沢採。⑤山北町山市場(450m), 小林採。⑥南足柄市飯沢(130m), 大類(1981)。⑦小田原市曾比(50m), 大類(1981)。⑧箱根町金時山(1200m), 田代(1961)。⑨小田原市鴨宮(13m), 大類(1981)。⑩箱根町台ヶ岳(1020m), 田代(1961)。⑪箱根町木賀(450m), 田代(1961)。⑫箱根町早雲山(960m), 田代(1961)。⑬小田原市和留沢(370m), 大類(1981)。⑭開成町吉田島(67m), 大類(1981)。⑮南足柄市大雄町(130m), 大類(1981)。⑯厚木市上荻野(150m), 小林採。⑰厚木市厚木ゴルフ場(100m), 小林採。⑱厚木市七沢(200m), 小林採。⑲横浜市戸塚区下飯田(30m), 小林・小宮山採。⑳横浜市戸塚区深谷町(40m), 小林採。㉑平塚市 高麗山(180m), 小林採。㉒川崎市 中之島(30m), 新井採。㉓横浜市 保土谷区子供植物園(90m), 小林採。㉔横浜市 旭区南本宿(90m), 小林採。㉕横浜市 港南区下永谷町(70m), 小林採。㉖横須賀市大楠山(240), 小林採。

図5に示すようにモグラの水平分布状況は、全県下にモグラは棲息していることを示している。現在宅地開発の波におそわれている。㉓横浜市保土谷区子供植物園のような保存林の多いところに、いまだにモグラが棲息しているということは、モグラの種の保存とい

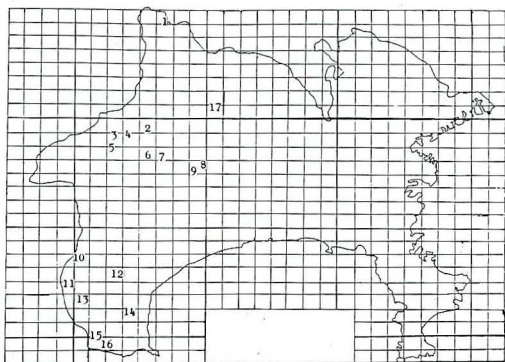


図6 カゲネズミの採集地点。(1)陣馬山, (2)蛭ヶ岳, (3)白石沢, (4)桧洞丸, (5)ゴーラ沢, (6)鍋割沢, (7)塔ヶ岳, (8)大山, (9)ヤビツ峠, (10)金時山, (11)湖尻峠, (12)和留沢, (13)駒ヶ岳, (14)聖岳, (15)奥湯河原, (16)アケビ沢, (17)仏果山, (18)畑。

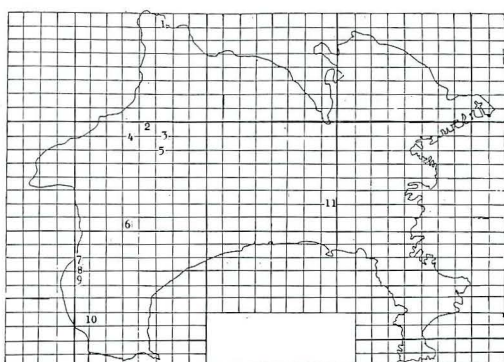


図7 ハタネズミの採集地点。(1)陣馬山, (2)蛭ヶ岳, (3)姫次, (4)桧洞丸, (5)塔ヶ岳, (6)神ノ川, (7)金時山, (8)仙石原, (9)大原, (10)元箱根, (11)山谷。

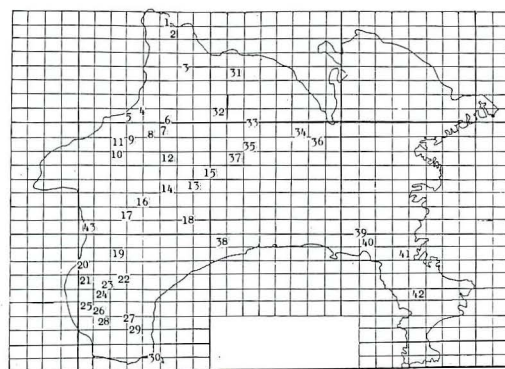


図8 アカネズミの採集地点。(1)陣馬山, (2)橋詰, (3)顕鏡寺, (4)此之間沢, (5)神ノ川, (6)蛙沢, (7)丹沢山, (8)蛭ヶ岳, (9)桧洞丸, (10)ゴーラ沢, (11)白石沢, (12)塔ヶ岳, (13)菩提, (14)大倉, (15)大山, (16)向原, (17)虫沢, (18)震生湖, (19)最乗寺, (20)金時山, (21)大原, (22)和留沢, (23)宮城野, (24)強羅, (25)駒ヶ岳, (26)元箱根, (27)聖岳, (28)お玉が池, (29)星山, (30)真鶴, (31)小倉山, (32)仏果山, (33)鳶尾山, (34)栗原, (35)飯山, (36)本郷, (37)七沢, (38)鷹取山, (39)山崎, (40)佐助稻荷, (41)鷹取山, (42)大楠山, (43)畑。

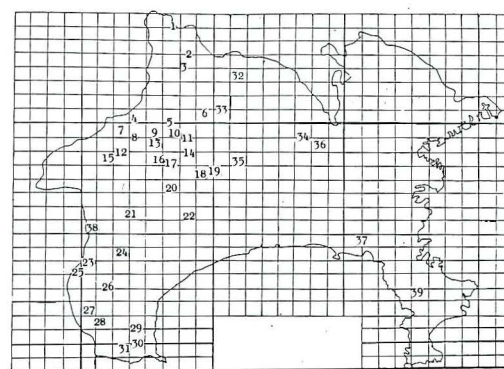


図9 ヒメネズミの採集地点。(1)陣馬山, (2)山口, (3)顕鏡寺, (4)神ノ川, (5)蛙沢, (6)宮ヶ瀬, (7)犬越路, (8)桧洞丸, (9)蛭ヶ岳, (10)姫次, (11)塩水, (12)ゴーラ沢, (13)熊木沢, (14)札掛, (15)箒沢, (16)鍋割沢, (17)塔ヶ岳, (18)ヤビツ峠, (19)大山, (20)大倉, (21)向原, (22)震生湖, (23)金時山, (24)最乗寺, (25)乙女峠, (26)宮城野, (27)駒ヶ岳, (28)元箱根, (29)聖岳, (30)星山, (31)新崎川, (32)小倉山, (33)仏果山, (34)入谷, (35)七沢, (36)本郷, (37)鷹取山, (38)畑, (39)大楠山。

う観点から、特に注目すべきことではないだろうか。
⑤横浜市区港南区下永谷町は宅地開発が進んだためほとんどその姿を消してしまった。その反面、⑨戸塚区下飯田や⑪戸塚区深谷町附近では開発の進んでいない林の中や林をとりまく畑には多くの個体が棲息している。各地のゴルフ場にも多く棲息し、芝生を枯らす害獣としてモグラは注目されており、特に箱根地域のゴルフ場では毎年多くの個体が捕獲されている。

垂直分布状況では⑨小田原市鴨宮の標高13mから丹

沢山塊の③桧洞丸山1500mまでの間に分布している(図11)。
②丹沢早戸川上流(700m)および③丹沢桧洞丸山(1500m)、⑤山北町山市場(450m)、⑦小田原市曾比(50m)、⑧箱根町金時山(1200m)、⑩箱根町台ヶ岳(1020m)、⑪箱根町木賀(450m)、⑫箱根町早雲山(960m)、⑬小田原市和留沢(370m)、⑭南足柄市大雄町(130m)などの地点で棲息が確認されているものはすべてコモグラ *Mogera wogura imaizumi* である。今泉(1963)はコモグラはアズマモグラ *Mo-*

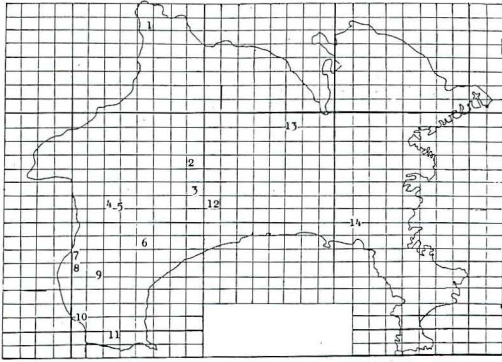


図10 カヤネズミの採集地点。(1)沢井, (2)ヤビツ峠, (3)落合, (4)堂山, (5)王風山寺, (6)栢山, (7)金時山, (8)大原, (9)宮城野, (10)海ノ平, (11)宮山, (12)南矢名, (13)入谷, (14)山崎。

gera wogura wogura (本報告ではコモグラとアズマモグラは同一とみなしモグラとして扱っている)と異なり、山地棲の亜種で低地にはふつう棲息しない。従ってアズマモグラとは棲息地が異ると述べているが、⑮南足柄市大雄町のように標高130mで、しかも畑地においても棲息が確認された上、コモグラとアズマモグラは同一であるという説もあることから、コモグラとアズマモグラとの関係は今後再調査する必要がある。コモグラの採集地点は図11のように、その多くは標高の高いところに位置している。

齧歯目 RODENTIA

齧歯目ではヤマネ科 Gliridae (Muscardinidae) に属するヤマネ *Glirurus japonicus* 1種と、ネズミ科に属するカゲネズミ *Eothenomys kageus*, ハタネズミ *Microtus montebelli*, アカネズミ *Apodemus speciosus*, ヒメネズミ *Apodemus argenteus*, カヤネズミ *Micromys minutus* の5種、計6種が県下に棲息する。

ヤマネ *Glirurus japonicus*

背の正中線に顕著な黒線があるわが国の特産種で、本州、四国、九州に棲息する。現在までのところヤマネの採集は試みていないので、県下における水平および垂直分布の様子は全く不明である。1968年に山北町ゴーラ沢(650m)にあった山小屋の中で見つけた死体1個体だけが、唯一の記録である。このことから丹沢山塊を中心に棲息することは確かで、今後の調査が期待される。

カゲネズミ *Eothenomys kageus*

関東および中部地方に棲息する比較的小形なネズ

ミである。カゲネズミをスミスネズミ *Eothenomys smithi* と同一種であるとする研究者が多いが、ここでは今泉(1963)にしたがってカゲネズミとスミスネズミは別種とした。次の18か所から棲息が確認された(図6)。

①藤野町陣馬山(857m), 小林・山口採。②丹沢蛭ヶ岳(1670m), 小林・山口・新井採。③丹沢白石沢(900m), 小林・小宮山採。④丹沢桧洞丸山(1500m), 小林・山口・飯田採。⑤山北町ゴーラ沢(650m), 小林・山口採。⑥丹沢鍋割沢(750m), 小林・北原採。⑦丹沢塔ヶ岳(1490m), 小林・北原採。⑧伊勢原市大山(700m), 小林・小宮山採。⑨丹沢ヤビツ峠(700m), 小林・山口採。⑩箱根町金時山(1200m), 田代(1961)。⑪箱根町湖尻峠(900m), 小林採。⑫小田原市和留沢(370m), 大類(1981)。⑬箱根町駒ヶ岳(1320m), 田代(1961)。⑭小田原市岳岳(800m), 小林・北原採。⑮湯河原町奥湯河原(400m), 田代(1961)。⑯湯河原町アケビ沢(500m), 小林採。⑰愛川町仏果山(500m), 今泉他(1980)。⑱山北町畑(250m), 小林・小宮山採。

水平分布状況は調査不十分ではっきりしたことはわからないが、図6に示したように陣馬山、丹沢山塊、箱根地域を中心に分布しているようである。垂直分布状況(図11)は⑱山北町畑250mから②丹沢山塊の最高峰蛭ヶ岳の1670mまでに棲息している。今までの調査結果では比較的個体数が少ないようである。

ハタネズミ *Microtus montebelli*

カゲネズミに酷似しているが、体は大きく、尾は短かい。わが国の特産種で本州、九州、佐渡島のみに棲息する。中部地方以北では平地に極めて多いが、中国および九州地方では比較的稀のようである。次の11か

所で棲息が確認された(図7)。

①藤野町陣馬山(857), 小林・山口採。②丹沢蛭ヶ岳(1670m), 小林・北原採。③丹沢姫次(1350m), 小林・北原採。④丹沢松洞丸山(1500m), 小林・山口・飯田採。⑤丹沢塔ヶ岳(1490m), 小林採。⑥丹沢神ノ川(600m), 小林・山口採。⑦箱根町金時山(1200m), 田代(1961)。⑧箱根町仙石原(700m), 田代(1961)。⑨箱根町大原(600m), 田代(1961)。⑩箱根町元箱根(800m), 田代(1961)。⑪秦野市山谷(250m), 大類(1981)。

ハタネズミはふつう低地の耕作地帯や河川の土手などに多く棲息する種であるが、現在のところ県下では平地における採集をおこなっていないので水平分布の様子ははっきりしない。

垂直分布状況は図11に示したように⑪秦野市山谷の標高250mが最も低く、最高は②丹沢蛭ヶ岳の1650mで、平地性であるにもかかわらず、県下ではハタネズミは比較的高所に多く棲息している傾向が見られる。このことはハタネズミは時おり大発生し、棲息範囲を拡大した後、急激にその個体数の減少をきたし、少数の個体が棲息範囲を拡大した個所に飛石的に生存を続けているのではないかという説によるのかも知れない。

いずれにしてもハタネズミの水平および垂直分布の調査は平地における調査結果にまたざるを得ない。

アカネズミ *Apodemus speciosus*

体は細く足が比較的長く、耳介が大きい。北海道、本州、四国、九州、伊豆七島、佐渡島、隠岐島、対馬、壱岐、五島列島、種子島、屋久島などに広く分布する。わが国の各地では低地から低山帯にかけて極めて多く棲息し、野鼠のなかでも最も優勢な種であるが、亜高山帯以上では稀である。次の43か所で棲息が確認された(図8)。

①藤野町陣馬山(857m), 小林・山口採。②藤野町橋詰(400m), 小林採。③相模湖町石老山顕鏡寺(347m), 今泉他(1980), 小林・山口採。④津久井町青根此之間沢(450m), 小林・山口・小宮山採。⑤丹沢神ノ川(600m), 小林・山口採。⑥丹沢早戸川上流蛙沢(600m), 小林・山口採。⑦丹沢丹沢山(1560m) 小林・北原採。⑧丹沢蛭ヶ岳(1970m), 小林・北原採。⑨丹沢松洞丸山(1500m), 小林・山口・飯田採。⑩山北町ゴーラ沢(650m), 小林・山口採。⑪丹沢白石沢(900m), 小林・小宮山採。⑫丹沢塔ヶ岳(1940

m), 小林採。⑬秦野市菩提(400m), 小林採。⑭秦野市大倉(400m), 小林採。⑮伊勢原市大山(700m), 今泉他(1980)。⑯松田町虫沢(500m), 小林・小宮山採。⑰山北町向原(300m), 小林採。⑱秦野市震生湖(200m), 小林採。⑲南足柄市最乗寺(300m), 今泉他(1980)。⑳箱根町金時山(1200m), 田代(1961)。㉑箱根町大原(600m), 田代(1961)。㉒小田原市和留沢(370m), 大類(1981)。㉓箱根町宮城野(550m), 小林・北原採。㉔箱根町強羅(700m), 田代(1961)。㉕箱根町駒ヶ岳(1320m), 田代(1961)。㉖箱根町元箱根(800m), 田代(1961)。㉗小田原市聖岳(800m), 小林・北原採。㉘箱根町お玉が池(750m), 田代(1961)。㉙小田原市星山(600m), 今泉他(1980)。㊱真鶴町真鶴(80m), 田代(1961), 小林採。㊲城山町小倉山(300m), 今泉他(1980)。㊳愛川町仏果山(500m), 今泉他(1980)。㊴厚木市鷹尾山(240m), 今泉他(1980)。㊵座間市栗原(700m), 今泉他(1980)。㊶厚木市飯山(270m), 今泉他(1980)。㊷横浜市瀬谷区本郷(60m), 今泉他(1980)。㊸厚木市七沢(300m), 小林・山口採。㊹二宮町鷹取山(250m), 今泉他(1980)。㊺鎌倉市山崎(60m), 小林・山口採。㊻鎌倉市佐助稲荷(90m), 小林採。㊼逗子市鷹取山(100m), 今泉他(1980)。㊽横須賀市大楠山(240m), 今泉他(1980)。㊾山北町畑(250m), 小林・小宮山採。

図8に示すように水平分布状況は市街地を除きほぼ全県的に分布していることを示している。㊾鎌倉市山崎は住宅地に囲まれて残されている林の中で棲息が確認されたものである。また㊼鎌倉市佐助稲荷は市役所の裏に残されている森林帯の中にある。これらのことから、まだ十分に調査がおこなわれていない5万分の1地形図区分による八王子、横浜、藤沢などの地域にも、宅地開発からまぬかれていた神寺林や森林が存在しているので、これらの地域を調べればアカネズミの棲息が確認できるものと思われる。

垂直分布状況は㊼横浜市瀬谷区本郷の標高60mから㊾丹沢山塊の最高峰蛭ヶ岳1670mまでの間に、ほぼ連続的に分布している。現在までの採集経験によると、いずれの地点においても、多くのアカネズミを捕獲することができたので、本県においても野鼠のなかで最も優勢な種と考えられる。

ヒメネズミ *Apodemus argentus*

アカネズミに似ているが、体は小さく、足は比較的

1700			(3)	(7)		(2)	(2)	(8)	(9)	
			(9)					(7)		
1500		(2)	(6)	(3)	(4) (7)	(4) (5)	(9)	(8) (17)		
							(12)			
		(4)	(8) (30)		(13)	(3)	(25)	(10) (27)		
1250	(4)		(1)	(17)(25)	(8)	(10)	(7)	(20)	(23) (7)	(7)
					(10)					
1000					(12)				(25)	
	(1)		(5)			(3)(11)	(11)			(10)
			(1)			(1)	(1)	(1)	(1)	
	(3)		(21)(31)(32)			(14)	(10)	(26)(27)	(28)(29)	
750			(14)(33)			(6)		(28)	(16)	
	(5)(6)	(4)	(10)(12)(18)(19)(28)	(2)	(8)(9)	(8)	(15)(24)	(13)(18)(19)	(2)	
			(16)(27)		(5)		(10)	(12)		
	(2)	(6)	(3)(4)(11)(15)			(6)(9)	(5)(6)(21)(29)	(4)(5)(15)(30)	(8)	
							(23)		(9)	
500		(3)	(15)(26)(36)		(16)(17)		(16)(32)	(14)(26)		
	(1)			(5)(11)			(4)			
	(2)(5)		(20)(34)		(15)		(2)(13)(14)	(11)(20)(31)(33)	(1)	
			(2)	(13)	(12)		(22)	(3)	(11)	
			(22)(24)(35)(47)				(3)			
250	(7)		(39)				(17)(19)(31)(37)	(21)(24)(32)(35)		
			(37)	(42)	(4)	(18)	(11)	(33)(38)	(43)	(4)(5)
			(23)(29)(41)	(1)(18) (21)				(18)	(2)(22)(37)	(3)
				(6)(15)(16)						
			(46)	(17)(23)(24)				(30)(40)(41)		(12)
			(38)(40)(44)(45)	(7)(14)(25)				(34)(36)(39)	(36)	(14)
				(19)(20)						(6)(13)
0 (m)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

短かく、耳介は大きい。北海道、本州、四国、九州、佐渡島、隠岐島、対島、種子島、屋久島などに広く分布している。純森林棲で、森林がある限り平地から亜高山帯にまで広く分布し、高山のハイマツ帯にも棲息していることがある。次の39か所で棲息が確認された(図9)。

①藤野町陣馬山(857m)、小林・山口採。②相模湖町山口(200m)、小林採。③相模湖町石老山顕鏡寺(347m)、今泉他(1980)、小林・山口採。④丹沢神ノ川(600m)、小林・山口採。⑤丹沢早戸川上流蛙沢(600m)、小林・山口採。⑥清川村宮ヶ瀬(250m)、小林採。⑦丹沢犬越路(1170m)、小林・北原採。⑧丹沢松洞丸山(1500m)、小林・山口・新井・飯田採。⑨丹沢蛭ヶ岳(1670m)、小林・北原採。⑩丹沢姫次(1350m)、小林・北原採。⑪清川村塩水川(400m)、小林採。⑫丹沢ゴーラ沢(650m)、小林・山口採。⑬丹沢熊木沢(700m)、小林・北原採。⑭清川村札掛(500m)、小林採。⑮山北町箒沢(600m)、小林採。⑯丹沢鍋割沢(750m)、小林・北原採。⑰丹沢塔ヶ岳(1490m)、

小林採。⑱丹沢ヤビツ峠(700m)、小林・山口採。⑲伊勢原市大山(700m)、今泉他(1980)、小林・小宮山採。⑳秦野市大倉(400m)、小林採。㉑山北町向原(300m)、小林採。㉒秦野市震生湖(200m)、小林採。㉓箱根町金時山(1200m)、田代(1961)。㉔南足柄市最乗寺(300m)、今泉他(1980)。㉕箱根町乙女峠(1000m)、田代(1961)。㉖箱根町宮城野(500m)、小林・北原採。㉗箱根町駒ヶ岳(1320m)、田代(1961)。㉘箱根町元箱根(800m)、田代(1961)。㉙小田原市聖岳(800m)、小林・北原採。㉚小田原市星山(600m)、今泉他(1980)。㉛小田原市新崎川上流(400m)、小林・小宮山採。㉜城山町小倉山(300m)、今泉他(1980)。㉝愛川町仏果山(400m)、今泉他(1980)。㉞座間市入谷(50m)、山口採。㉟厚木市七沢(300m)、小林・山口採。㊱横浜市瀬谷区本郷(60m)、今泉他(1980)。㊲二宮町鷹取山(60m)、今泉他(1980)。㊳山北町畑(250m)、小林・小宮山採。㊴横須賀市大楠山(240m)、小林採。

図9に示したように水平分布状況は5万分の1地形

図11 各種における垂直分布状況

- A) ジネズミの採集地点。(1)白石沢、(2)東沢、(3)ユーン、(4)金時山、(5)小塚山、(6)強羅、(7)畑。
- B) カワネズミの採集地点。(1)沢井、(2)塩水、(3)札掛、(4)早川、(5)新崎川、(6)奥湯河原。
- C) ヒメヒミズの採集地点。(1)犬越路、(2)松洞丸、(3)蛭ヶ岳、(4)姫次。
- D) ヒミズの採集地点。(1)陣馬山、(2)顕鏡寺、(3)神ノ川、(4)蛙沢、(5)白石沢、(6)松洞丸、(7)蛭ヶ岳、(8)姫次、(9)丹沢山、(10)ゴーラ沢、(11)箒沢、(12)熊木沢、(13)ユーン、(14)鍋割沢、(15)札掛、(16)カジカ沢、(17)二ノ塔、(18)ヤビツ峠、(19)大山、(20)大倉、(21)高松山、(22)向原、(23)震生湖、(24)最乗寺、(25)金時山、(26)宮城野、(27)大原、(28)強羅、(29)塔ヶ岳、(30)駒ヶ岳、(31)元箱根、(32)聖岳、(33)星山、(34)新崎川、(35)小倉山、(36)仏果山、(37)鷹尾山、(38)栗原、(39)飯山、(40)本郷、(41)七沢、(42)鷹取山、(43)柳島、(44)下永谷、(45)山崎、(46)佐助稲荷、(47)鷹取山、(48)大楠山。
- E) モグラの採集地点。(1)山口、(2)蛙沢、(3)松洞丸、(4)山谷、(5)山市場、(6)飯沢、(7)曾比、(8)金時山、(9)鴨宮、(10)台ヶ岳、(11)木賀、(12)早雲山、(13)和留沢、(14)吉田島、(15)大雄町、(16)荻野、(17)厚木ゴルフ場、(18)七沢、(19)下飯田、(20)深谷、(21)高麗山、(22)中之島、(23)保土ヶ谷、(24)南本宿、(25)下永谷、(26)大楠山。
- F) カゲネズミの採集地点。(1)陣馬山、(2)蛭ヶ岳、(3)白石沢、(4)松洞丸、(5)ゴーラ沢、(6)鍋割沢、(7)塔ヶ岳、(8)大山、(9)ヤビツ峠、(10)金時山、(11)湖尻峠、(12)和留沢、(13)駒ヶ岳、(14)聖岳、(15)奥湯河原、(16)アケビ沢、(17)仏果山、(18)畑。
- G) ハタネズミの採集地点。(1)陣馬山、(2)蛭ヶ岳、(3)姫次、(4)松洞丸、(5)塔ヶ岳、(6)神ノ川、(7)金時山、(8)仙石原、(9)大原、(10)元箱根、(11)山谷。
- H) アカネズミの採集地点。(1)陣馬山、(2)橋詰、(3)顕鏡寺、(4)此之間沢、(5)神ノ川、(6)蛙沢、(7)丹沢山、(8)蛭ヶ岳、(9)松洞丸、(10)ゴーラ沢、(11)白石沢、(12)塔ヶ岳、(13)菩提、(14)大倉、(15)大山、(16)向原、(17)虫沢、(18)震生湖、(19)最乗寺、(20)金時山、(21)大原、(22)和留沢、(23)宮城野、(24)強羅、(25)駒ヶ岳、(26)元箱根、(27)聖岳、(28)お玉が池、(29)星山、(30)真鶴、(31)小倉山、(32)仏果山、(33)鷹尾山、(34)栗原、(35)飯山、(36)本郷、(37)七沢、(38)鷹取山、(39)山崎、(40)佐助稲荷、(41)鷹取山、(42)大楠山、(43)畑。
- I) ヒメネズミの採集地点。(1)陣馬山、(2)山口、(3)顕鏡寺、(4)神ノ川、(5)蛙沢、(6)宮ヶ瀬、(7)犬越路、(8)松洞丸、(9)蛭ヶ岳、(10)姫次、(11)塩水、(12)ゴーラ沢、(13)熊木沢、(14)札掛、(15)箒沢、(16)鍋割沢、(17)塔ヶ岳、(18)ヤビツ峠、(19)大山、(20)大倉、(21)向原、(22)震生湖、(23)金時山、(24)最乗寺、(25)乙女峠、(26)宮城野、(27)駒ヶ岳、(28)元箱根、(29)聖岳、(30)星山、(31)新崎川、(32)小倉山、(33)仏果山、(34)入谷、(35)七沢、(36)本郷、(37)鷹取山、(38)畑、(39)大楠山。
- J) カヤネズミの採集地点。(1)沢井、(2)ヤビツ峠、(3)落合、(4)堂山、(5)王風山寺、(6)栢山、(7)金時山、(8)大原、(9)宮城野、(10)海ノ平、(11)宮山、(12)南矢名、(13)入谷、(14)山崎。

図区分による八王子、横浜、横須賀などの地域の調査が不十分なため、その分布は山岳地帯にかたよっているように見えるが、これらの地域にはヒメネズミの棲息に適した森林地帯がまだ相当に残されているので、今後の調査によって分布状況はぬりかえられるものと思われる。

垂直分布状況は図11に示したように⑭座間市入谷の標高60mから丹沢山塊の最高峰蛭ヶ岳の1670mまでの間にアカネズミと同じように連続的に分布している。このことはアカネズミ属に含まれている種の垂直分布における一般的な傾向と推定される。

カヤネズミ *Micromys minutus*

アカネズミおよびヒメネズミに似ているが、それらより小さく、耳介は短い。尾の先端の上面は裸で、物に巻きつけるのに適している。ススキやヨシの高さ約50cm程のところに鳥の巣の形をした巣をつくる。北ユーラシア大陸の草原地帯に広く分布している。わが国では本州、四国、九州、対馬などに分布するが、その水平分布状況は草原に限られているので、飛石的分布を示しているようである。本県では調査が不十分なため棲息地は極くわずしか知られていない。次の14か所で棲息が確認された。

①藤野町沢井(400m)、小林(1974)。②丹沢ヤビツ峠(700m)、今泉他(1966)。③秦野市落合(200m)、今泉他(1966)。④山北町堂山(250)、今泉他(1966)。⑤山北町王風山寺(250m)、山口(1981)。⑥小田原市栢山(50m)、田代(1961)。⑦箱根町金時山(1200m)、田代(1961)。⑧箱根町大原(600m)、田代(1961)。⑨箱根町宮城野(550m)、小林・北原採。⑩箱根町海ノ平(940m)、田代(1961)。⑪湯河原町宮山(300m)、田代(1961)。⑫秦野市南矢名(100m)、山口採。⑬座間市入谷(50m)、山口(1981)。⑭鎌倉市山崎(60m)、山口(1981)、小林採。

図10に示したように水平分布状況は一応飛石的分布をしているように見られるが、調査が不十分なため、結論は今後の調査結果に期待せざるを得ない。垂直分布状況(図11)は⑥小田原市栢山および⑬座間市入谷の標高50mから⑩箱根町金時山の1200mまでの間であるが一般的には低地に棲息するように見える。金時山の1200mはカヤネズミの棲息地としては恐らく最も高いものであろう。今泉(1963)も採集地点の最も高い標高として1200mをあげている。また棲息地は主として草原であるが、⑨箱根町宮城野の場合のように森林

帯で捕獲される場合もある。白石(1968)もそのような例をいくつかあげている。

要 約

① 県下に棲息する地上棲小型哺乳類、即ち、ジネズミ、カワネズミ、ヒメヒミズ、ヒミズ、モグラ、カゲネズミ、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミの10種について、水平および垂直分布状況を県立博物館で1965年から1985年末までに集めたデータをベースにして、文献から得たデータを加えて調べてみた。

② いずれの種についても調査が不十分で、今後の調査結果をまたねば何ともいえないが、垂直分布状況ではヒミズおよびカゲネズミ、アカネズミの各種は標高50mから1650mまでの間に分布していることがわかった。

③ 調査不十分とはいえ、平地に普通に棲息しているハタネズミが意外にも県下においては高所に棲息していることがわかった。今後その原因を調べる必要がある。

お わ り に

現在までに集めた資料は陣馬山地域および丹沢山塊、箱根地域などの山地帯のものが多く、平地や市街地付近における資料はまだ不十分である。そこで今後、平地や市街地付近の調査をおこない、県下に棲息する地上棲小型哺乳類の水平および垂直分布状況を更に明確にするつもりである。

文 献

- 今泉吉典 1963 原色日本哺乳類図鑑. 保育社. 大阪.
今泉吉典・吉行瑞子・小原巖 1964 丹沢山塊の小哺乳類. 大山丹沢学術調査報告書. 神奈川県. 347-348.
今泉吉典・吉行瑞子・小原巖・土屋公幸 1966 本州東部におけるホンシュウカヤネズミの新産地. 哺乳動雑. 3: 15-16,
今泉吉典・小林峯生・吉行瑞子・山口佳秀 1980 神奈川県の小哺乳類相について 神奈川県博研報(自然科学). 12: 53-68.
小林峯生 1974 神奈川県におけるホンシュウカヤネズミの新産地. 哺乳動雑. 6(2): 179-180.
小林峯生・北原正宜 1968 ヒメヒミズの新産地. 哺乳動雑. 4(2): 60-61.

- 小林峯生・山口佳秀 1971 丹沢山塊におけるヒメヒ
ミズ *Dymecodon pirilostri* TRUE の分布と
小哺乳類相について, 神奈川県博調査研究報
告, 4.
- 大類正久 1981 小型哺乳類リスト (未発表).
- 白石哲 1968 九州産カヤネズミの営巣習性, 林試研
報, 220: 1-10.
- 田代道弥 1961 箱根近辺産獣類検索誌, 小田原郷土
文化館, 21.
- 1985 箱根の自然を探る, 神奈川県博県民
アカデミーテキスト, 2-3.
- 山口佳秀 1981 哺乳類ノート(1)—ホンドカヤネズミ
の新産地, 神奈川自然誌資料, 2: 37-38.
(小林峯生: 神奈川県立博物館, 小宮山 仁: 東京
農業大学教養課程生物学研究室)